

6/1(火) 16:45~18:45

監督稽古

統率：松本監督

参加卒業生：なし

欠席/遅刻：玉木さん、加藤さん、中根さん/村上さん、小森さん、坂元、安達

内容

準備体操

ストレッチ

独り技

後方転倒受身

膝行各種

受身各種

腕振り跳躍技の稽古

呼吸投げにおける崩しの稽古

片手交差取り呼吸投げの楷書の稽古 二人1組

片手交差取り呼吸投げの行書の稽古 二人1組

片手交差取り呼吸投げの草書の稽古 二人1組

片手交差取り呼吸投げの練り稽古 二人1組 二年生以上 組になって受け取り交代して20本ずつ

片手交差取り呼吸投げの練り稽古 二人1組 取り)一年生 受け)黒帯

片手交差取り呼吸投げの練り稽古 二人1組 取り)上級生 受け)一年生

片手交差取り呼吸投げの練り稽古 二人1組 取り)一年生 受け)上級生

片手交差取り呼吸投げの練り稽古 二人1組 取り)上級生 受け)一年生

手取り転換呼吸投げの練り稽古 二人1組 二年生以上 受け取り交代して20本ずつ

呼吸動作

今日のポイント：呼吸投げの「呼吸」すなわち「リズム」を大切にする

感想

こんにちは、私一年の太田です。6月も中旬に至り、山積みの課題に焦りを覚え始めました。

私が入部したのが4月18日でした。今書いているこの部誌が6月14日分ですから、合気道部における生活も間もなく3カ月目に入ることになります。およそ2カ月に渡る稽古を通して、自らの身体の「クセ」というものが少しずつ分かるようになってまいりました。特に、私は力みやすい傾向があります。そのことはずっと意識していました。しかし、私の力みは想像以上に深刻なようです。何より心身統一合気道の稽古をするにあたっては、それが致命的な足かせとなるため、これをどのように解決していくかということが当分の最重要課題であると考えます。このようにして、これから「修正すべきこと」あるいは稽古によって「新たに得られる感覚」を言語化していくという作業を大切にしていきたいと思います。

ただ、実際に技や、さらには—そうならないことを祈りますが—実戦の場においては、どれほど言葉巧みにそれを表現しても、目の前の相手以外の事柄についての意識は動きを鈍くするはずです。実際、その問題は既に現れています。私の感ずる限りにおいては、そもそも考えられることが少なかった始めのころのほうが全体としての「流れ」は良かったのです。(細部にまで目をやればいつでも粗ばかりですから、たった2カ月離れているだけの2つの時点を比較することに、どれだけの意味があるのかという疑問は残ります。)「とにかく身体を動かすこと」、そして「考えてみること」のバランスを追究することも稽古の上で非常に重要になると思います。

とはいえ、哲学を志す私にとって思索はやはり重要な意味をもちます。その手がかりとなるものを先日、心身統一合気道会の会報に掲載された藤平師範のお言葉の中に見つけました。それは、「臍下の一点とは『無限小』の空間である。」ということです。ここで重要となるのは、「無限小」という言葉の現れです。私が普段「哲学」として意識するもの、それは「西洋哲学」であり、その領域において「無限」とかそういったことを扱うのは少し道を逸れた行為であるようにも思われてしまいます。

しかし、東洋哲学に目をやれば、無限やそれに似た何やら漠然とした概念がその思想の根幹をなすものである場合も少なくないことが分かります。実際、藤平光一先生はヨーガ行者でもあった中村天風さんに大きな影響を受けて「心身統一道」の着想を得たようです。私がこれから合気道を理解する上で、その助けとなるものは実はいつもの世界より少し遠く行ったところにあるのかもしれないと、近頃考えるようになりました。実は今、東洋哲学を考える特論の授業を取っています。非常に難解で、私が私の場所でこれを応用するのは決して楽なことではありませんが、合気道の稽古と同じく、粘り強く取り組んでいきたいと考えております。それでは失礼致します。

担当：太田 百和

